

枠内の記述は、「ドクターサロン 57 巻 3 月号」の記事より抜粋させて頂いております。

腎臓病の「食事療法」は、1～3 期ぐらいまでのステージでは目に見える顕著な効果は低く「薬物療法」を補助するものです。

しかし、ステージが進んで、4～5 期に入り腎機能が低下すると、たんぱく質・塩分制限などの「食事療法」の効果は顕著に表れて、「透析治療導入」を延期させるという力が出てくるように感じます。

透析治療されている場合は、「食事療法」を守らないと「命」にかかわる状況になるから重要です。

薬物療法は、薬を飲みさえすれば効果は出ますが、「食事療法」は、患者さんとご家族が本気で取り組む努力と、医療者側が「技術」を患者さんに伝えて、患者さんと家族がそれを理解し継続する事で効果が出ますから、薬物療法と同列では考えられない難しい療法と言えます。

医師と患者と家族のチームワークの良し悪しが出る治療で、難易度が高いにもかかわらず診療報酬が低いので、医師にとっては割に合わない医療になっています。

この記述のように、「食事療法」は「薬物療法」より難しいうえに「命」に関わりますから、三度の食事を安易に考えてはいけません。医師から指示される栄養成分摂取量を守り、自己判断で味覚の好みや満腹を求める事はとても危険です。糖尿病・高血圧・心疾患においても同様です。

医療現場で、長年の指導経験を持つ管理栄養士が、献立作成・食材選択・成分調整指示書監修し、療養食専門の調理工場で、調理技術の高い専門スタッフが、一品一品ハンドメイド、分量を正確に盛り付け（分量が異なると大変です）、素早く自動マシンでパッケージした療養食を冷凍でお届けして好評をいただいております。

【ネットショップ大賞（医療・介護部門）5 回受賞】

このように手間暇かけて作る「療養食」は、「食事療法」に欠かせない特別なお料理です。

「食事療法」は継続が重要ですから末永くご利用下さいませ。

スタッフ一同

